

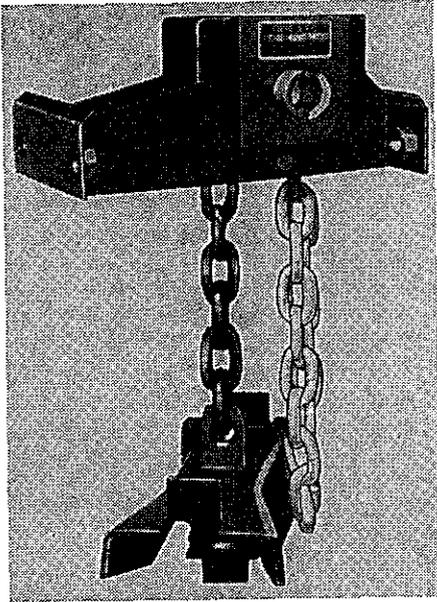
中央製機(株)

スベアタイヤキャリアで世界一

大型トラックやバスの腹の部分に予備タイヤを取り付ける機械「スベアタイヤキャリア」の全国トップメーカーである。米国、英国、西ドイツ、オーストラリアなどの国際特許も持ち、スベアタイヤキャリアに関しては、今や世界の「チューオーセイキ」。その一方、最近では自動機の分野にも進出してメキメキと名をあげ、メカトロニクス分野でも注目を集めている。

スベアタイヤキャリアは、渡辺社長自らが考案したものの。同社長は元は製紙機械会社の二代目だったが、知人から相談を受けてこれを開発、立派に企業化できると踏んで昭和三五年に同社を設立した。ちょうど、世はモータリゼーションまつ盛り。その品質の優秀さが認められ、たちまち車には不可欠のものとなり、売り上げは急カーブで上昇していった。

表彰の歴史は華々しい。科学技術庁長官賞(三八年、四九年)、県知事賞(四二年)、輸出向け優秀商品としての中小企業庁長官賞(五一年)と盛りだくさん。現在、技術的



スベアタイヤキャリア

〔会社概要〕

▽設立	昭和35年6月	
▽社長	渡辺芳男 (富士市出身、昭和9.5.10生)	
▽事業所	本社=富士市五貫島1310 工場=同上 分工場=富士市横割2-2-27	
▽資本金	1,200万円	
▽営業品目	自動車部品スベアタイヤ保 持器製造、メカトロニクス 自動化機械と汎用、産業機 械の製作及び加工組立	
▽従業員	40人(男34人、女6人)	
▽研究スタッフ	6人	
▽最近の業績	(単位:百万円)	
年月	売上高	経常利益
58	600	18
59(見込)	700	35

〒418 富士市五貫島一三〇

☎〇五四五―六一―三四三三

にはさらに磨きをかけた遊星ギヤ方式で、二重逆転防止構造となっている。そして国産車のほとんどが、これを装備している。

だが、国内のトラック、バス市場の成熟化に伴い、同社は「自動車一本槍ではなく、もつと別の柱を建てておくべきだ」と反省、俄然、メカトロニクス技術の応用分野へと乗り出し始めた。メカトロ分野は未知の世界ではなく、五年にスベアタイヤキャリア生産ラインの自動化に向けて走りだしたところから、すでに社内的には研究に着手していた。

メカトロ化の追求の中で最初に生まれたのが、自動供給装置付き抵抗溶接機やマルチスポット溶接機。特に鋼材メーカーに納めた接触式センサーを応用した自動溶接設備は、溶接部のバラツキをセンサーで自動修正しながら作業が進む画期的なもので、現在、特許を申請中である。この納入に当たっては、大手ロボットメーカー数社を相手にして競り勝ち、業界をアッと言わせた。

さらに最近では、社内でのこうした機械開発の中から、作業効率アップのために考案した簡易平面書き装置を開発、これを商品化するなど新分野への挑戦が始まっている。このほか、アオリ戸開閉装置、ロボット周辺機器など、さらに新しい製品を求める動きは活発だ。

創業以来、ほんの一〇年前まで、同社の製品のほぼ一〇〇%がスベアタイヤキャリアだった。しかしメカトロ化の追求で、同社の売上高に占めるスベアタイヤキャリアの比率は年ごとにダウンし、現在は七〇数%。メカトロ機器を中心とする製品が着実に増えてきている。

「いつまでもスベアタイヤキャリアだけに頼ってはいけません。もう一つ、二つ別の柱を建てなければならぬ」という渡辺社長の方針が、着実に実行されつつあるというのだ。大竹専務も「この三年ぐらい売り上げの五〇〜八〇程度を、メカトロを始めとする新分野の研究開発に投資してきた。以前の投資額と比べると三〜四倍の額で、社としても大変だったが、今後これが必ず実を結ぶと思う」と期待している。

渡辺社長を中心とする開発プロジェクトチームは、さらに新しいメカを求めて挑戦中だ。